



マラソンシンポジウムに参加して



田邊薫(NPO 暮らしネット・えん理事)

リモートで日本中をつなぎ8時間に及ぶ介護シンポジウムが開催された。全国各地でパブリックビューイングが行われ、暮らしネット・えんもその一つになった。会場には利用者や介護従事者、地域住民など20名以上の人が参加していた。

シンポジウムは、介護家族や介護に携わる専門職、ジャーナリストや研究者など約20人が「制度編」、「現場編」、「未来編」の3部に分かれて発言された。休憩も含めて8時間の長時間だったが、内容が濃く集中して聞くことができた。

特に印象に残ったことは3点。

1 点目。利用しにくい介護保険制度。介護されている家族の発言の中に、介護サービスが利用できなかったために、介護心中も考えたというショッキングな言葉があった。もっとシンプルで、使い勝手がよい制度でなければ、本人や介護者がサービスを求めている時に、必要なサービスが届かない。介護保険サービスは年を重ねるたびに複雑になり、利用要件が加わり、利用しにくくなっている。誰のために作られた制度なのか。使いやすく頼りになる制度に改めなければならない。

2 点目はお金に関すること。年金生活で家計に余裕がない高齢者にとって、介護費用は切実な問題だ。介護保険料は値上がりの一途で、利用料も所得に応じて1割～3割になった。じわじわと負担が増えている。これでは介護サービスの利用を躊躇せざるを得ない。大きな財布を持つ国は小銭しか持たない国民のお金を当てにし過ぎず、国のお金の使い道を考えてほしい。

3 点目は、介護保険を私ごととして考えること。いつか使うかもしれない介護サービスという考えではなく、私ごととして考えていかないといけない。そうでなければ、今回のテーマ「こんなはずじゃなかった」になっていく。介護職員のマンパワー不足の話題は何年も続き仕方ないこととして片付けられていないか。倒産する事業所も増えるばかりだ。介護に従事する人たちが誇りをもって働き続けられるような環境整備、地域の実情に応じきめ細かなサービスを提供している小規模事業所がつぶれないよう見守っていかなければならない。

介護保険制度についてもっと学び、国民的な議論にしていかなないと先細りになるばかりだ。

